

# 令和4年度

## 南伊勢町繁殖牛放牧事業 2.0

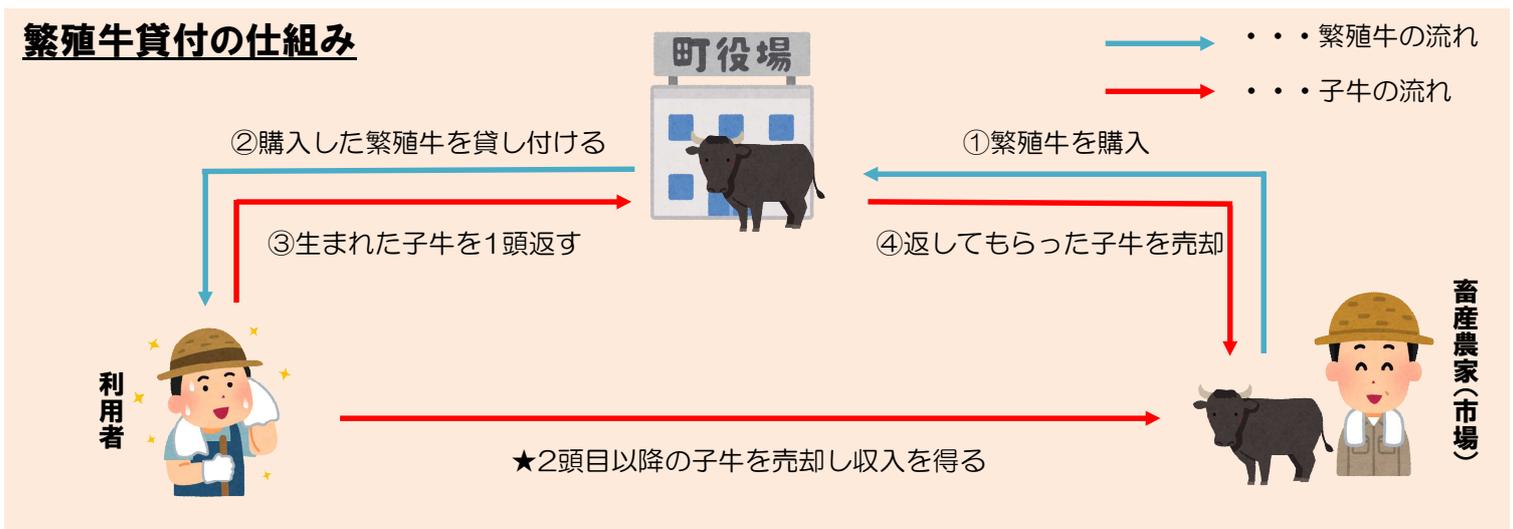


### 【事業概要】

繁殖牛経営を核とした複合経営の確立や耕作放棄地の解消を目的とし、町が所有する繁殖牛を貸し付け、遊休農地等を活用して移動放牧を行い、地域農林業の発展、稼げる農林業を目指す。

また、地域おこし協力隊員等の制度を活用し、技術習得（担い手育成）により新規就農者を確保します。

### 繁殖牛貸付の仕組み



### ◎事業実施に至る経緯

農山村で若い人が定着できる収入確保を検討する「若者定住お仕事検討会」（役場農林係と若者定住係）を開催し、地域の課題である耕作放棄地を資源として捉え、放牧による繁殖経営の導入は有望であるという方向性を確認し、令和3年度事業スタート。

※農山村の地域資源を活用したいろいろな仕事の創出と組合せ（複合経営）を目指します。

【事業詳細（令和4年度）】

令和3年度、試験的に取り組んだ繁殖牛放牧事業は、無事に分娩も終え、親牛子牛ともに放牧の馴致は順調に進んでいる。しかし、課題として、畜産経験のない担い手希望者が移動放牧、繁殖作業等を行うことはハードルの高いものであり、一定技術の習得と心構えが必要である。令和4年度は、これらの対策として迫間浦放牧地を繁殖牛育成の研修拠点と位置づけて、指導員（農山村アドバイザー）のもと、インターン等のお試し期間に繁殖牛経営を体験する。地域おこし協力隊等の制度を活用し、自立までの準備期間に繁殖、放牧技術を習得し、担い手を育成する。また、協力隊制度活用後、南伊勢町繁殖牛経営チームを結成し、町の耕作放棄地解消や複合経営のモデルを構築する。

研修の仕組み



【自立までスケジュール】

1年目 指導員のもと・・・

- 繁殖牛飼育技術の習得
- 放牧地移動、分娩・出荷補助 etc.

2年目 協力隊員等が主体となり・・・

- 繁殖牛飼育
- 放牧地移動、分娩・出荷段取り
- 繁殖牛経営+αの検討 etc.  
(青ネギ栽培、林業、その他産業等)

3年目 繁殖牛経営チームとして・・・

- 繁殖牛飼育、分娩、出荷
- 牛貸付頭数増、放牧地の確保、移動
- 繁殖牛経営+αの実施 etc.

自立後の収入例（6頭を2名で経営した場合）

◇子牛出荷収入	360万円	
◇転作補助	420万円	
◇+α仕事	220万円	合計1,000万円

◎令和3年度実績

- 5月 繁殖牛2頭購入
- 6月～7月 耕作放棄地内で馴致（迫間浦）
- 8月～9月 大江～道行竈～迫間浦で移動放牧
- 10月・11月 迫間浦拠点にて分娩(10/30、11/12)
- 10月～ 迫間浦拠点にて放牧
- 1月 種付け予定

◎令和4年度

- 4月～ 町内遊休農地等で移動放牧の馴致
- 6月 子牛出荷
- 11月 分娩予定

<参考>

農林水産省では、令和2年度から「長期的な土地利用に在り方に関する検討会」を開催し、大規模経営体に施策を集中する一方で、大規模経営体が成立困難な条件不利地域をどうするかという視点で、耕作放棄地解消に向けた検討を行っています。これまでの検討において、最も有望な耕作放棄地解消策として「放牧」を位置付けています。